

FIRSTCOM

特定小電力トランシーバー

FC-S220

取扱説明書

この度はFIRSTCOM FC-S220 をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

ご使用前にこの説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。お読みになったあとは、大切に保管してください。

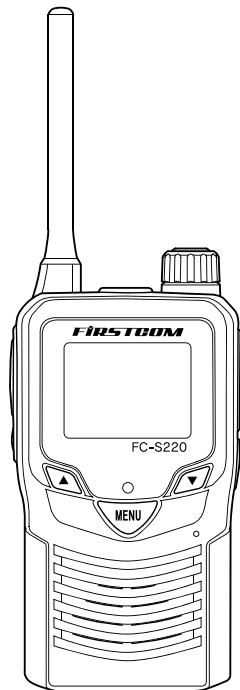
故障の疑いがある場合、まずリセットを行ってください(35 ページ参照)。また、ハンズフリー機能(VOX 機能)がオフになっていることをご確認ください。

このトランシーバーは日本国内専用機器です。海外ではご使用できません。

◆総務省技術基準適合品

◆免許・資格不要

株式会社 エフ・アール・シー



目次

安全上のご注意	3
通信チャンネルについて	7
FC-S220 の便利な機能	8
同梱品の確認	8
ご使用前の準備	9
使用する電池	9
電池の取り出し・取り付け	10
充電電池（FBP-2）の充電	11
ベルトクリップの取り付け	12
ストラップの取り付け	13
イヤホンマイクの取り付け（オプション）	13
各部の名称	14
表示説明	14
基本編	15
電源を入れて通話をする	15
待ち受け	16
グループ番号の設定（Group）	17
キーロック	18
スキャン	18
応用編	19
機能設定一覧	19
Key Function（キー機能選択）	20
その他の便利な機能	23
VOX 感度調整	23
VOX 保持時間	24
キーロック	25
キーロック解除	26
バックライト	26
操作音	27
呼出音	28
終話音	29
自動電源オフ	30
スケルチ	31
FM ラジオ	32
会話開始音	33
言語	34
リセット	35
故障かなと思ったら	36
仕様	37

安全上のご注意

表示について

本機を使用する際に、人体や財産に危害や損害を及ぼすことを未然に防ぎ安全に使用していただくため、重要な内容を記載しています。

ご使用にあたり、次の内容をよく理解していただくために表示マークと本文をよくお読みの上、正しくご使用ください。

	危険	人体が死亡もしくは重傷を負いかねない危険が明らかに生じることを想定される内容。
	警告	人体が死亡もしくは重傷を負いかねないことが生じることを想定される内容。
	注意	人体が障害を負いかねなく、物的障害の発生を想定される内容。

危険

- 可燃性ガスの発生する場所で使用しない。引火、爆発の恐れがあるので、可燃性ガスの発生するような場所では使用しないでください。
- 電池の取り扱いについて
- 本機の使用にあたり、単3アルカリ乾電池もしくは9ページに記載された指定充電電池以外使用しないでください。液漏れ、発火、破裂の原因となります。
- 充電温度範囲は5～35℃です。この温度範囲以外では、充電しないでください。
- 指定された充電器以外では充電しないでください。発火・発熱・破損の原因となります。
- 火中に投入、分解、改造、はんだ付けは行わないでください。

- 電池が液漏れを起こしたときは、使用を止めてください。
- 液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けてください。また、皮膚や衣服に付着した時は、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 電極をショートさせないでください。コインやヘアピンなどの金属と一緒に携帯、保管するとショートすることがあります。



警告

■ 使用環境・条件

- 運転中の使用は、絶対に行わないでください。
- 電子機器、特に医療機器の近くでは使用しないでください。
- 航空機内、空港敷地内、新幹線車両内では、使用しないでください。
- 本機は直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。
- ごく近くに人がいる場合、送信しないでください。
- 湿度の高い場所での使用はお止めください。また、雨水などにさらされないように注意してください。
- 落下などにより、破損したり正しく動作していないときは、使用しないでください。
- 使用中に煙が出た場合、すぐに使用をやめて電池を外し、お買い求めいただきました販売店または弊社までご連絡ください。
- この製品は調整済みです。分解・改造をしないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 充電端子をショートさせないでください。
- 長期間使用しないときは、電池を本体から外して常温で保管してください。
- 海外では使用できません。

注意

■ 使用環境・条件

- テレビ、ラジオ、ストーブ、電子レンジなどのそばで送信しないでください。
- 車内のダッシュボードやヒーターの吹き出し口など異常に温度が高くなる場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- アンテナを誤って目に差したりしないよう注意してください。
- ネックストラップを使用している場合、それがドアや機械などに巻き込まれないようご注意ください。
- イヤホンマイクは指定されたオプション品をご利用願います。

■ 保守・点検

- 長期間使用しないときは、電池を外して保管してください。
- 水滴が付いたら、乾いた布で拭き取ってください。汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤を使用し柔らかい布で軽くふき取ってください。シンナーやベンジンなどは使用しないでください。

お客様または第三者が本製品の誤使用、誤設定、使用中に発生した故障、誤動作、不具合あるいは天災や停電等の外的な要因によって、情報・通信等の機会を逸したために生じた損害等につきまして、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

電波法に関する注意

* 下記の内容は、電波法により禁止されています。

- 本体裏面の技術適合証明ラベルを剥がしての使用
- 本機を分解、改造しての不正使用
- 他人の通話を聞いてこれを人に漏らす行為、または窃用する行為
- 航空機など、使用を認められていないところでの使用

上記の内容をよく理解して、正しくご使用ください。



ご使用上の注意

- 本機は、特定小電力トランシーバー、9ch 機、11ch 機、20ch 機のトランシーバーと通話することが可能です。現在お持ちのトランシーバーにグループモードが無い場合、本機のグループモードはオフにしてご使用ください。
- 通話できる距離は、環境により大きく変わります。目安としまして、見晴らしの良い郊外でおよそ1～2km、市街地でおよそ100～200mです。建物などの障害物により通話距離が大きく左右されます。
- 本機は防水構造になっておりません。雨の日や水がかかるようなところでの使用は、本体が濡れないように注意して使用してください。
- テレビ、ラジオ、パソコン、蛍光灯のすぐ近くでは、電波障害を与えたり、受けたりすることがありますので、これらのものから離れて使用してください。



特定小電力トランシーバーの規格による制限

- 通信時間制限について

特定小電力トランシーバーで連続的に送信する場合は、3分間で自動的に送信を停止します。

3分間の通信時間制限機能により自動停止になった後の2秒間は送信できません。2秒間経過後は、通常通り送信できます。

- キャリアセンスについて

無線機が通話状態に無い時に、他の無線機から信号を受信中に PTT ボタンを押しても、アラーム音が鳴り送信できません。通話状態にある時はこの限りではありません。

通信チャンネルについて

既に本機以外のトランシーバーをお持ちの場合、通話チャンネルを合わせることで、本機と交信することが可能です。

通話チャンネル適合表

本機および多数の 20ch 機	11ch 機	9ch 機	他表示タイプの 20ch 機
ch1	ch1	—	ch1
ch2	ch2	—	ch2
ch3	ch3	—	ch3
ch4	ch4	—	ch4
ch5	ch5	—	ch5
ch6	ch6	—	ch6
ch7	ch7	—	ch7
ch8	ch8	—	ch8
ch9	ch9	—	ch9
ch10	ch10	—	ch10
ch11	ch11	—	ch11
ch12	—	ch1	ch h1
ch13	—	ch2	ch h2
ch14	—	ch3	ch h3
ch15	—	ch4	ch h4
ch16	—	ch5	ch h5
ch17	—	ch6	ch h6
ch18	—	ch7	ch h7
ch19	—	ch8	ch h8
ch20	—	ch9	ch h9

FC-S220 の便利な機能

1 グループモード

仲間以外の混信を防ぐグループモード。本機以外でも互換性のある CTCSS グループモードと本機および FC-S22 で使用可能な DCS グループモードを搭載

2 ハンズフリー（VOX）機能

PTT を押さなくても、マイクに向かって話すと自動送信されます

3 会話開始音

会話の頭切れを防ぐために話を始めるタイミングをビープで知らせます

4 終話音

自分の通信が終了することを音で知らせます

5 ライト

簡易的な懐中電灯代わりに使用できます。

6 USB Type-C 充電端子

オプションの充電電池を本体側面の USB Type-C 端子より充電できます

7 FM ラジオ

通常の FM ラジオに加え、ワイド FM【FM 補完放送】対応

同梱品の確認

本体（2台セット）

ベルトクリップ（2個）

取扱説明書（1冊）

ご使用前の準備

使用する電池

- ・アルカリ乾電池（単3型 3本）
- ・FBP-2（オプション充電電池パック）

※急な発熱の恐れがありますので、他社製の充電電池は使用できません。

電池の使用可能時間の目安

種類	使用時間
アルカリ乾電池	約 34 時間
FBP-2（別売り）	約 21 時間

測定条件：新品アルカリ単3電池で、低周波出力定格 200mW、送信 10 秒、受信 10 秒、待受 80 秒の繰り返し動作

注意

- 1 電池の消耗を防ぐため、受信待受け状態が 20 秒間継続するとバッテリーセーブ機能が動作開始します。バッテリーセーブ中、受信立ち上がりおよび VOX 送信立ち上がり等に通常より時間がかかる場合があります。
- 2 長期間製品を使用しない場合、無線機から電池を取り出して保管をしてください。長期間保存後に使用する際、新品の乾電池を使用するか、充電電池を再充電してからご使用ください。

■電池残量表示

電池残量表示は3段階あり、残量の目安をあらわします。

満充電の時、残量バーが3個点灯します。残量バーが空になると、約30秒毎に警告音が鳴ります。この場合電源を切って早めに電池の交換を行うか、FBP-2を使用している場合は、充電してください。

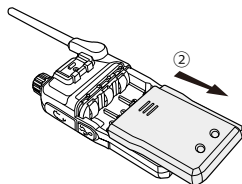
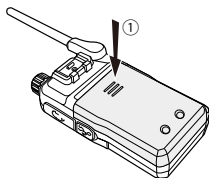
電池残量の目安

3:	75% 以上
2:	50% 以上
1:	25% 以上
0:	5% 以下

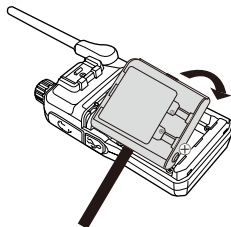
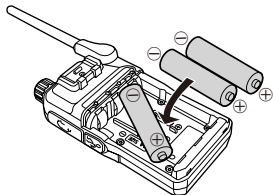


電池の取り出し・取り付け

- 1 背面電池カバーを下にスライドさせて電池装着部を開けます。

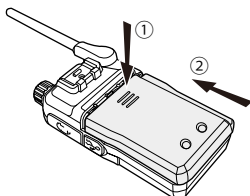


- 2 電池端子が本体の端子に接続する位置、向きに電池を装着します。



電池（または充電電池）は、プラス側から入れてください

3 電池カバーをスライドさせて閉じます。



電池に関する注意

電池は使い方を誤ると破裂、破損、液漏れや機器の故障の原因となります。下記注意事項を守ってご使用ください。

- 火の中に投げ込まないでください
- ショート（短絡）、分解、加熱をしないでください。
- 長時間使用しない時は、電池を本体から取り出して保管してください

充電電池（FBP-2）の充電

充電する際は、弊社オプションのFBP-2をご使用ください。

充電方法は以下2通りあります。

1. 充電スタンド（FBC-5RC：オプション）による充電（FBC-5RSの端子は、ケンウッドタイプを使用）

ACアダプタをコンセントに差し込みます。

充電器スタンドの背面に AC アダプタのケーブルを接続します。

無線機の電源を切って充電器スタンドに差し込むと充電が開始されます。

充電器スタンドの LED の色は以下ようになります。

充電中	赤
満充電	緑

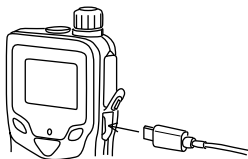
2. USB Type-C 充電端子による充電

★ USB 充電器（AC アダプタなど）及び USB ケーブルは付属しておりません。お客様ご自身でご用意願います。

無線機本体の USB カバーをめくって USB ケーブルの USB Type-C 端子を無線機のコネクタに挿入します。

本体 LED の色は以下ようになります。

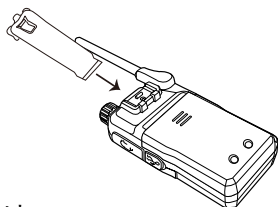
充電中	橙
満充電	青



ベルトクリップの取り付け

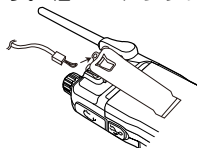
ベルトクリップを本体背面の取り付け位置へ上から挿入し、カチッと音がするまで下にスライドさせて取り付けてください。

取り外すときは、背面のロックを手前に起こしながら、クリップを下から押し上げて取り外してください。



ストラップの取り付け

ストラップは、ベルトクリップのストラップホールに通し、通した紐の輪にストラップを通します。紐にストラップ全体を潜らせて引き絞ってください。



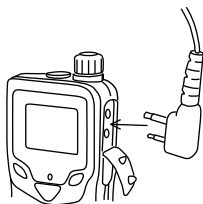
イヤホンマイクの取り付け（オプション）

本体右横のイヤホンマイクジャックのカバーをめくってイヤホンマイクプラグを差し込んでください。

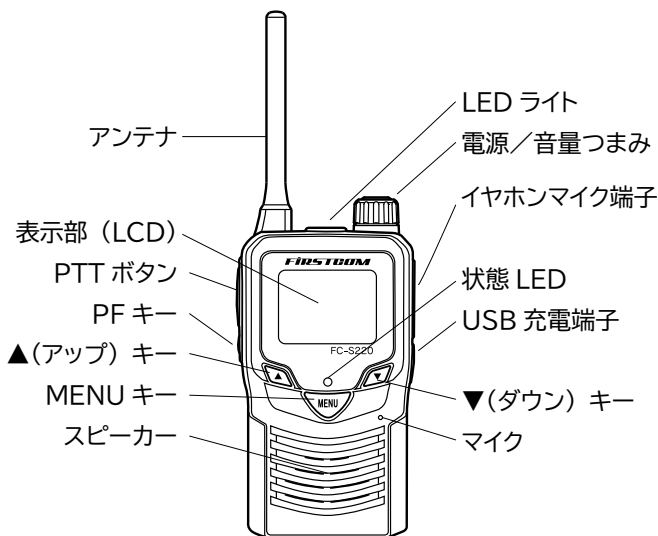
使用できるイヤホンマイクは弊社オプションのF タイプとなります。詳細はオプションの項目参照ください。

！ 注意

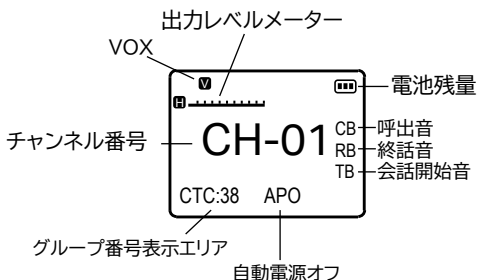
イヤホンマイクのケーブルを強く引っ張ったり、可動部分に過大な力で操作をしたりすると、断線や破損の恐れがあります。



各部の名称



表示説明



基本編

電源を入れて通話をする

通話する相手のトランシーバーと同じチャンネルに合わせ、送信・受信を交互に切り替えながら通話します。まず、2台で通話テストを行ってください。

■ 電源を入れてチャンネルを合わせる

- アンテナを立て、電源スイッチ・音量つまみを右に回して電源を入れ、音量つまみを適度な位置に調整してください。
- ▲ / ▼キーを押して希望のチャンネルに合わせます。

■ 送信する

- PTT ボタンを押しながら会話を開始します。

(送信中はLCD 左上にメーターが点灯、状態 LED が赤く点灯します)



■ 受信する

- PTT ボタンから手を離すと受信待受け状態になります。
- 信号を受信するとアンテナアイコンが表示され、状態 LED が緑色に点灯します。
- 音量つまみを回して受信音量を調整してください

■ 電源を切る

- 電源を切るときは電源 / 音量つまみを反時計回りにカチッと音がするまで回して電源を切ります。

! 注意：

信号を受信中（状態LEDが緑に点灯している間）にPTTボタンを押して送信をしようとしても送信禁止音が鳴って送信ができません。

受信状態が終わってから（緑のLEDが消灯してから）PTTボタンを押して送信を開始してください。

送受信状態LED

送信	赤
受信	緑
待受	消灯

待ち受け

待ち受け状態では、チャンネル表示になっています。待ち受け状態で▲／▼キーでチャンネルの変更、MENUキーでグループの選択ができます。

グループ番号の設定 (Group)

グループ番号を設定することで、同じチャンネル、同じグループからの信号のみを受信することができます。グループはチャンネル毎に設定できます

- 1 ▲ / ▼キーでグループを設定するチャンネルを選択
- 2 MENU キーを押してグループ設定画面を表示します
- 3 PF キーを押して Group (CTCSS, DCS, CTCSS オフ) を選択し MENU キーを押します

グループをオフにする場合は、CTCSS オフを選択してから MENU キーを押してください。



- 4 グループの種類が決まったら▲ / ▼キーでグループ番号を選択します
- 6 MENU キーを押すと設定が確定し、待ち受け表示へ戻ります。

選択できるグループ番号

CTCSS 1	1-38
DCS 1	1-104
CTCSS オフ	グループを使用しないとき

注意

グループ機能を使用する場合、通常は CTC の 38 グループから選択してください、CTC38 グループは弊社トランシーバー及び他社製品と互換性があります。本機種および FC-S22 でグループ通話をしたいときに DCS グループの選択をすることをお勧めします。

キーロック

待ち受け状態で MENU キーを長押しするとキーロックアイコンが点灯し、キーロックが有効になります。

キーがロックされているとき、PTT ボタン以外のキーがロックされて操作が出来なくなります。

キーロックを解除するには、キーロックアイコンが消えるまで MENU キーを長押しします。

スキャン

▲キーまたは▼キーを長押しするとチャンネルスキャンを開始し、使用中のチャンネルを探し始めます。スキャンの方向は、▲／▼キーで選択できます。スキャン中は、LCD 右下に「スキャン」を表示します。

スキャン中に有効な信号を受信すると、そのチャンネルで一時停止します。その際に PTT ボタンを押すとそのチャンネルで送受信ができます。チャンネルに一時停止したのち、送受信をしない時間が5秒経過するとスキャンが再開されます。スキャンを停止するときは、▲／▼キーの長押し、または MENU キーを押してください。

スキャン機能は、PF キーに割り当て可能です。

応用編

機能設定一覧

FC-S22 には、メニューにより以下の設定が可能です。

機能表示	設定値	初期値
サイドキー (PF キー)	モニター／ラジオ／アラーム／スキャン／ライト／設定なし	モニター
VOX 感度	1/2/3/ オフ	オフ
VOX 保持時間	0.3/0.5/1.0/1.5/ 2.0/3.0 秒	1.0 秒
キーロック	手動／自動	手動
バックライト	自動／オフ／オン	自動
操作音	オン／オフ	オン
呼出音	1 / 2 / 3 / オフ	オフ
終話音	オン／オフ	オフ
自動電源オフ	オフ、10 分 / 30 分 / 1 時間 / 2 時間 / 3 時間 / 4 時間 / 5 時間 / 6 時間	オフ
スケルチ	0/1/2/3/4/5/6/7/8/9	5
FM ラジオ	固定／優先	固定
会話開始音	オン／オフ	オフ
言語	日本語 / English	日本語

Key Function (キー機能選択)

PTT ボタンの下にある Programable Function Key (以下 PF キー) に様々な機能を割り当てることができます。

■ PF キーに設定できる機能

モニター

ラジオ

アラーム

スキャン

ライト

設定なし

■ 設定方法：

- 1 電源を切ります。
- 2 PTT ボタンと▼を押しながら電源を入れます。



- 3 ▲ / ▼キーで機能を選択し MENU キーを押します。
- 4 ▲ / ▼キーで割り当てる機能を選択して MENU キーを押します。
- 4 MENU キーを押すと設定が確定し、機能リスト表示へ戻ります。
- 5 PF キーを押すと再起動します。

★モニター

モニターに設定された PF キーを押すと、モニターのオン / オフができます。

受信信号強度が弱いときなどモニター (PF) キーを押すとスケルチが解除され、弱信号を受信することができます。スケルチはモニターキーを押している間のみ解除されます。

★ラジオ

FM ラジオに設定された PF キーを押すと FM ラジオのオン / オフができます。

FM ラジオモード中は FM の周波数表示になります。

FM ラジオモードで MENU キーを押すとスキャンを開始します。(スキャン方向は▲ / ▼キーで選択できます) FM 放送局の受信をしたらスキャンは停止します。また、▲ / ▼キーで順次周波数を変えられます。

ラジオ設定が「優先」の時、トランシーバーの待受けチャンネルが受信するとトランシーバーモードへ移行します。トランシーバーの送受信が約 5 秒間途切れると FM ラジオへ戻ります。

ラジオ設定が「固定」の時は、トランシーバーモードには切り替わりません。

★アラーム (Alarm)

アラームに設定された PF キーを押すとアラームのオン / オフができます。

アラームがオンになると無線機のスピーカーからアラームが鳴りだします。

アラームを止めるときは再度アラーム (PF) キーまたは PTT を押します。

アラームの音量は、トランシーバーの音量と同じレベルになります。

★スキャン

スキャンに設定された PF キーを押すとスキャンのオン / オフができます。

スタンバイ状態でスキャンをオンにすると、使用チャンネルのサーチを開始します。スキャンモード中は LCD に “スキャン” と表示されています。

スキャンの方向は ▲ / ▼ キーで選択し、スキャン中に有効な信号を受信するとそのチャンネルで一時停止します。その際に PTT を押すとそのチャンネルで送信ができます。送信終了または受信信号が無くなると 5 秒後にスキャンが再開します。

スキャンを完全に停止するときはスキャン (PF) キーまたは MENU キーを押します。

★フラッシュライト (Flashlight)

フラッシュライトに設定された PF キーを押すと、無線機上部のライトのオン (点灯) / オフ (消灯) ができます。

★設定なし (Unassigned)

機能を割り当てないときに選択します。

その他の便利な機能

VOX 感度調整

VOX 機能を使用すると PTT ボタンを押さずにマイクに向かって話すだけで、自動的に送信することができます。話を止めると自動的に受信待受け状態になります。VOX 機能が有効になっている時、“V” アイコンが点灯します。

- 1 電源を切ります
- 2 PTT キーと▼キーを押しながら電源を入れます。機能リストが表示されます
- 3 ▲ / ▼キーで VOX 感度を選択し MENU キーを押します



- 4 ▲ / ▼キーで希望する感度またはオフを選択して MENU キーを押します
- 5 PF キーを押すと再起動ます

設定値：オフ、1、2、3 数字が大きいほど感度が高くなり、より送信しやすくなります。

ヒント！

VOX 機能とトークビープ (Talk Beep) を組み合わせて使うと、話を開始するタイミングが音でわかるので、VOX の機能をさらに便利に使うことができます。また、イヤホンマイクでのご使用をお勧めいたします。



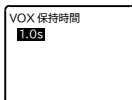
注意

- VOX 機能は受信時、確認音が鳴っている時、コールトーンが鳴っている時、スケルチ OFF の時、各機能設定中は動作しません。
- VOX 感度を高くした場合、周囲の環境によっては常に送信状態になる場合があります。

VOX 保持時間

VOX 動作で送信が開始されたとき、音声がなくなってから送信を保持する時間を設定できます。

- 1 電源を切ります
- 2 PTT ボタンと▼キーを押しながら電源を入れます。機能リストが表示されます
- 3 ▲ / ▼キーで VOX 保持時間を選択し MENU キーを押します



- 4 ▲ / ▼キーで希望する時間を選択して MENU キーを押します
- 5 PF キーを押すと待ち受け画面（チャンネル表示）へ戻ります

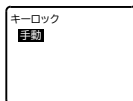
設定値：0.3 / 0.5 / 1.0 / 1.5 / 2.0 / 3.0 秒

キーロック

キーの誤操作や不用意な接触などによりチャンネルやグループ番号が変わらないようにキーをロックすることができます。ここではキーロックの動作を手動か自動の選択ができます。

キーロックが有効になった場合、PTT 以外のキーがロックされます。

- 1 電源を切ります
- 2 PTT ボタンと▼キーを押しながら電源を入れます。機能リストが表示されます
- 3 ▲ / ▼キーでキーロックを選択し MENU キーを押します



- 4 ▲ / ▼キーで手動または自動を選択して MENU キーを押します
- 5 PF キーを押すと再起動します

設定値

手動	Menu キーを2秒以上押すとキーロックされます
自動	最後に操作をしてから約 45 秒間何も操作が無いと自動的にキーロックになります

! 注意

キーロックの設定は、電源をオフにしたり電池を抜いたりしても保持します。

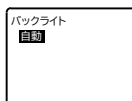
キーロック解除

キーロックの解除をするときは MENU キーを 1 秒以上長押ししてください。キーロックが解除されると“アンロック”と表示され、待ち受け画面に戻った時に、画面左上のキーロックアイコンの表示が消えます。

バックライト

LCD のバックライトを点灯するタイミングを設定できます。

- 1 電源を切ります
- 2 PTT ボタンと▼キーを押しながら電源を入れます。機能リストが表示されます
- 3 ▲ / ▼キーでバックライトを選択し MENU キーを押します



- 4 ▲ / ▼キーでオン、オフまたは自動を選択して MENU キーを押します
- 5 PF キーを押すと再起動します

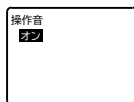
設定値

オン	常にオン
オフ	常にオフ
自動	送受信時やキー操作を行うと約 5 秒間バックライトが点灯します

操作音

キー操作をしたときにビープを鳴らすか鳴らさないかの設定ができます。

- 1 電源を切ります
- 2 PTT ボタンと▼キーを押しながら電源を入れます。機能リストが表示されます
- 3 ▲ / ▼キーで操作音を選択し MENU キーを押します



- 4 ▲ / ▼キーでオンまたはオフを選択して MENU キーを押します
- 5 PF キーを押すと再起動します

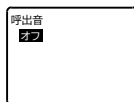
設定値

オン	キー操作音あり
オフ	キー操作音無し

呼出音

通話状態にないときに素早く 2 回 PTT ボタンを押すと呼出音（3 種類選択可能）が送信されます

- 1 電源を切ります
- 2 PTT ボタンと▼キーを押しながら電源を入れます。機能リストが表示されます
- 3 ▲ / ▼キーで呼出音を選択し MENU キーを押します



- 4 ▲ / ▼キーでオン (1,2,3) またはオフを選択して MENU キーを押します
- 5 PF キーを押すと再起動します。待ち受け画面の左側に“CB”が表示されます

設定値

オフ、1、2、3

呼出音を使用しない場合はオフを選択してください

終話音

送信を終了するときに音を送って、送信の終了を相手に知らせます。

- 1 電源を切ります
- 2 PTT ボタンと▼キーを押しながら電源を入れます。機能リストが表示されます
- 3 ▲ / ▼キーで終話音を選択し MENU キーを押します



- 4 ▲ / ▼キーでオンまたはオフを選択して MENU キーを押します
- 5 PF キーを押すと再起動します。待ち受け画面には、“RB”が表示されます

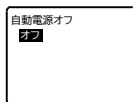
設定値

オン	終話音あり
オフ	終話音なし

自動電源オフ

自動電源オフは一定時間操作がない場合、自動的に電源をオフにします。電源の切り忘れを防止する機能です。

- 1 電源を切ります
- 2 PTT ボタンと▼キーを押しながら電源を入れます。機能リストが表示されます
- 3 ▲ / ▼キーで自動電源オフを選択し MENU キーを押します



- 4 ▲ / ▼キーで希望の時間またはオフを選択して MENU キーを押します
- 5 PF キーを押すと再起動されます。待ち受け画面には、“APO” が表示されます

設定値：オフ、10 分、30 分、1、2、3、4、5、6 時間

オートパワーオフを使用しないときはオフに設定してください。



注意

オートパワーオフで電源が切れた場合は、電源スイッチを一旦オフにしてください。

オートパワーオフで電源が切れた状態でも微量な消費電流が流れますので、長時間その状態にすると電池が消耗されます。

スケルチ

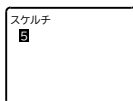
ここではノイズスケルチ（雑音をカットするレベル）の設定をおこないます。

スケルチ設定の値を下げるとより弱い信号でも受信しますが、より雑音が多くなります。

スケルチ設定の値を大きな値にすると、雑音の少ない音になりますが、より強い信号を受信しないと音が鳴りません。

0 に設定すると常に受信状態となり、信号を受信していない状態でも雑音が聞こえます。

- 1 電源を切ります
- 2 PTT ボタンと▼キーを押しながら電源を入れます。機能リストが表示されます
- 3 ▲ / ▼キーでスケルチを選択し MENU キーを押します



- 4 ▲ / ▼キーで希望の設定値を選択して MENU キーを押します
- 5 PF キーを押すと再起動されます

設定値：

0	スケルチオフ
1～9	値が小さいほど弱い信号で音が鳴りやすい



注意：特に問題が無い場合は、初期値の「5」くらいに設定してください。

FM ラジオ

FM 放送を受信します。(ワイド FM 対応) ラジオの受信は、固定と優先があり、固定の場合は、FM 放送だけを受信します。優先の場合は、FM 放送受信中に無線の待ち受けチャンネルが受信したら、無線機モードに移行し、通話可能になります。また FM ラジオを聴いている最中に PTT ボタンを押すと、無線機モードへ自動的に移行して送信を継続します。(無線機モードに自動移行したときは、LCD 上部に FM アイコンが点灯します)

無線機モードへ移行した後、通信が約 5 秒間途切れると無線機モードから FM ラジオ受信モードへ自動的に戻ります。

優先機能を使用する場合、待ち受けするチャンネルは FM ラジオに移行する直前に表示していたチャンネルになります。

- 1 電源を切ります
- 2 PTT ボタンと▼キーを押しながら電源を入れます。機能リストが表示されます
- 3 ▲ / ▼キーでラジオを選択し MENU キーを押します



- 4 ▲ / ▼キーで優先または固定を選択して MENU キーを押します。
- 5 PF キーを押すと再起動します

設定値：

優先	FM ラジオ受信中に無線機モード有効
固定	FM ラジオ受信中のみ

会話開始音

PTT ボタンを押した直後や VOX 送信直後に話を始めると会話の冒頭が切れてしまうことがあります。会話開始音機能を有効にすると PTT ボタンを押した後にビープが鳴ります。このビープ音の後に話を始めることで会話の頭切れを減らすことができます。

- 1 電源を切ります
- 2 PTT ボタンと▼キーを押しながら電源を入れます。機能リストが表示されます
- 2 ▲ / ▼キーで会話開始音を選択し MENU キーを押します



- 3 ▲ / ▼キーでオンまたはオフを選択して MENU キーを押します。
- 4 PF キーを押すと再起動されます。待ち受け画面には、“TB” が表示されます

設定値

オン	会話開始音あり
オフ	会話開始音無し

ヒント！

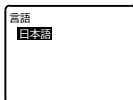
VOX 機能を使用していると、送信側（VOX 使用側）ではいつ送信になるかわからないため、自分の無線が送信になっていないのに会話を始めたりします。このため相手には会話の冒頭が届かないことがよく起こります。

このような場合にトークビープ機能を使うことで会話の頭切れを大幅に減少できます。

言語

表示する言語を切り替えられます。日本語と英語が設定可能です。

- 1 電源を切る
- 2 PTT ボタンと▼キーを押しながら電源を入れます。機能リストが表示されます。
- 3 ▲／▼キーで言語を選択し MENU キーを押します。

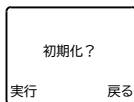


- 4 ▲／▼キーで日本語または ENGLISH を選択して MENU キーを押します
- 5 PF キーを押すと再起動され、選択された言語での表示になります。

リセット

リセットをすると、機能設定などはすべて初期値（工場出荷状態）に戻ります。

- 1 電源を切る
- 2 PTT ボタンと MENU キーをを押しながら電源を入れます。（初期化？と表示されます）



- 3 ▲を押すとリセットが開始されます（▼を押すとキャンセルされます）
- 4 リセットが終了すると”初期化中”表示が出て本体が再起動します

故障かなと思ったら

もしも不具合が生じた場合、修理を依頼される前に下記の表により確認してください。該当する症状が無い場合は、本体をリセットしてください。（35 ページ：リセット参照）

症状	原因	処置
電源が入らない、または表示がすぐに消える	電池が消耗している	電池を交換してください。充電機をご利用の場合は充電してください
受信できない・音が出ない	PTT が押されている	PTT を放す
	グループ番号が異なる	相手と同じグループ番号にする
相手と通話できない	チャンネルまたはグループ番号が違う	相手と同じチャンネル、グループ番号に合わせる
	相手との距離が離れすぎている	通話のできる距離まで近づく
キーを押しても表示が変わらない	キーロック状態になっている	キーロックを解除する
	その他の異常	リセットをする
勝手に送信される	VOX 機能がオンになっている	VOX 機能をオフにする

それでも動作しない場合は

〒194-0037 東京都町田市木曽西2-3-8

株式会社エフ・アール・シー サービス課

TEL: 042-793-7746

土日祝日及び弊社休業日を除く

【10:00～12:00、13:00～17:00】

■仕様

送受信周波数.....	422.050 ~ 422.175MHz (12.5kHz 間隔、11 波)
.....	422.200 ~ 422.300MHz (12.5kHz 間隔、9 波)
FM ラジオ受信周波数.....	76.0 ~ 95.0MHz 100kHz step
電波形式.....	F3E, F2D
送信出力.....	10mW
受信感度.....	-8dBuV 以下 (12dB SINAD)
低周波出力.....	1000mW 以上 (@ 8Ω、10% 歪)
電源電圧.....	DC4.5V (単3アルカリ電池)
使用時間.....	約 34 時間
測定条件：新品アルカリ電池で、低周波出力 200mW、送信 10 秒、受信 10 秒、待受 80 秒の繰り返し動作	
動作温度範囲.....	-10℃~+50℃
寸法.....	約 98 (高さ) × 58 (幅) × 27 (奥行) mm
重量.....	約 86g
付属品.....	ベルトクリップ (FC-S22BL)
	取扱説明書

■オプション品

イヤホンマイク.....	FPG-22F/23F/26F/29F, FP-22F, FH-23F
スピーカマイク.....	FPG-28F
充電器.....	FBC-5RS
充電電池.....	FBP-2

保証規定（本体のみ、付属品は除く）

本取扱説明書に保証書を添付しています。保証書は必ず「お名前、ご住所、お買い上げ日、販売店名」等を記入、ご確認のうえ、販売店より受け取ってください。

- 内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 保証期間は、商品お買い上げ日より1年間です。（電池に関しては、初期不良のみ交換対応）
- 修理を依頼される前に、「故障かなと思ったら」（36ページ）を参照していただき、解決されないようでしたら、本機の電源を切り、下記販売元にご連絡ください。
- 修理に出す前に、お客様が設定したデータをお控えください。修理内容によっては、全てのデータが消去される場合があります。
- 本機の不具合による通話不能等で発生した損害、被害につきましては、弊社は一切の責任を負いませんので、ご了承ください。
- 正常な使用で故障した場合、保証書をご提示いただき、保証期間内であれば修理にて対応させていただきます。その際、製品を販売店にお持ち込みいただくか弊社宛に送付して頂くセンドバック方式となります。
- 出張修理は行っていません。
- 保証期間中の代替機の貸し出しは行っていません。
- 保証期間が過ぎましたら、お客様のご希望により有償にて修理いたします。その際は、下記販売元へ連絡願います。

無料保証規定

- 1 保証期間内に取扱説明書、添付ラベル等の注意書きに従って正常に使用し故障した場合、無償修理させていただきます。
- 2 次の場合には、保証期間でも有料修理となります。
 - (イ) 保証書の提示が無い場合。もしくは、お客様、販売店名、お買い上げ年月日の記入がない、もしくは文字句を書き換えた場合
 - (ロ) 使用上の誤りや、不当な修理、調整、改造による故障及びそれが原因で生じた故障及び損害
 - (ハ) 故障の原因が本機以外の製品にある場合
 - (ニ) 落下、冠水などによる故障及び損害
 - (ホ) 火災、地震、風水害、落雷、塩害、その他天災地変などの不慮の事故による故障及び損害
 - (ヘ) 製造番号の変更もしくは取り外した製品
 - (ト) 消耗部品（電池等）

保証は日本国内においてのみ有効です。

(This warranty is valid only in Japan)

*この保証は本書に明記した期間、条件において無償修理をお約束するものです。したがって、この保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間終了後の修理などについて、不明な点はお買い求めの販売店までお問い合わせください。

株式会社エフ・アール・シー

TEL: 042-793-7746（10:00～12:00、13:00～17:00、土日祝日及び弊社休業日を除く）

URL: <http://www.frc-net.co.jp>

保証書

持込修理

保証期間中は正常な使用状態で故障した場合、保証書の規定により無償修理させていただきます。

- 修理は本保証書を提示し、お買い求めの販売店または、弊社にお問い合わせください。
- 本保証書はお買い上げ日、販売店名の記入捺印の無いものは無効です。必ず記入事項の確認をしてください。
- 本保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。
- 本製品は持込修理とさせていただきます。

★ お客様へのお願い

お手数ですが、ご住所、お名前、電話番号をご記入ください。

★ ご販売店様へ

お買い上げ日、貴店名、住所、電話番号を記入のうえ、本保証書をお客様にお渡しください。

商品名	特定小電力トランシーバー FC-S220		
保証期間	1 年間	購入年月日	年 月 日
お客様	ご住所		
	TEL		
	お名前		
販売店名	住所		
	店名		

株式会社エフ・アール・シー

〒194-0037 東京都町田市木曽西2-3-8

URL:<https://www.frc-net.co.jp>

Printed in China



4-1-R-CM-02